

最近の顕著な地震の表 (1961年~1970年)*

徳 永 規 一・勝 又 護**

550. 340

さきに筆者の一人(勝又, 1961)は, 1960年までの日本付近の顕著な地震の表を編集したが, 以来10年を経過したので, その続きを作製した。

1961年から1970年までの10年間に災害を伴った地震は, ごく軽微な被害のものまでいれて43回(ただし, 群発地震は一群を一件とした)におよんでおり, 1951~60年の期間が24回であるのにくらべ, 数の上では著しく多くなっている。これらのうち, 死者を出した地震は10回(1951~60年; 4回)とやはり多くなっている。しかし, これが地震活動そのものの増大を意味するものでないことはもちろんである。

1961年から1970年までの期間に注目されるべき地震としては, 1964年新潟地震(死者26人), 1968年十勝沖地震(死者49人)等であるが, 長期にわたって社会的問題となった松代群発地震も特記されるべきであろう。

参考のため, 最近約100年間(1872年浜田地震以後)の主要な地震災害について展望すると, 死者3000人以上の地震; 5回, 100~3000人; 11回, 10~100人; 17回となっている。これにたいして, 1948年福井地震以後1970年まで, 遠地地震による1960年チリ津波(死者119人)の災害を除き, 日本付近の地震で死者100人をこえる災害が一度も発生していないことは注目されよう(最近20年間で死者10人以上の地震災害は3回のみ)。

1961年から1970年までの期間に, 日本の沿岸で津波が観測された地震は, ごく小さいものまでいれて21回, うち, 津波による災害を生じたものは7回である。

表に収録した地震は

1. 日本国内(沖縄をふくむ)で地震災害の報告された地震。表で番号が太字, 図に○(中)で示されているものはやや著しい災害を伴ったものを示す。また, 表で震央地名までが太字, 図に○(大)で示されているものは, 特に著しい災害を伴ったものを示す。

2. 日本の沿岸で津波の観測された地震。表で番号の左側にT, 図に●で示されているもの。表のTが太字, 図に●で示されているものは, 1m以上の波高の津波を伴ったものを示す。

3. 気象官署において, 震度IV以上が観測された地震。記事欄の括弧内のローマ数字は東京における震度を示す。

4. 顕著な群発地震。図中の□はその範囲を示す。震源事項は, 日本付近の地震については「地震月報」によった。ただし, 深い地震のマグニチュードは勝又(1970), およびその追録によった(括弧を付してあるもの)。外国の地震の震源事項は主としてUSCGS***のものを用いた(*を付してある)。

表に記載された地震のうち, 顕著な災害を伴ったものについては多数の文献があるが, ここでは, 気象庁関係の出版物, 東京大学地震研究所彙報に掲載されているもののみを選び文献の表に記載した(番号は, 図, 表, 文献の表に共通)。

文献の表

- 1 験 (1961) 26, 61~63.
- 4 験 (1961) 26, 65~80, 震 (1961) 39, 537~560.
- 5 験 (1961) 26, 81~105, 震 (1961) 39, 561~578.
震 (1964) 42, 245~256.
- 11 験 (1962) 27, 41~42.
- 12 験 (1962) 27, 43~67. 震 (1961) 39, 849~952.
震 (1962) 40, 371~390.
- 19 験 (1962) 27, 69~77.
- 20 験 (1962) 27, 79~99. 震 (1962) 40, 591~652.
- 25 験 (1964) 28, 別冊.
- 31 験 (1964) 28, 107~109.
- 33 験 (1964) 28, 105~107.
- 39 震 (1964) 42, 543~554.
- 42 験 (1965) 29, 127~129.
- 43 震 (1965) 43, 399~408.
- 46 験 (1967) 30, 135~147. 震 (1964) 42, 597~608.
震 (1965) 43, 149~160.
- 49 枝 (1965) 43. 震 (1964) 42, 741~780.
- 51 験 (1965) 29, 131~132.
- 57 震 (1965) 43, 773~782.
- 61 震 (1965) 43, 625~639.
- 62 枝 (1968) 62. 震 (1966) 44, 307~440.
- 64 験 (1968) 32, 51~61.
- 76 震 (1967) 45, 1313~1326.

* K. Tokunaga and M. Katsumata: List of Major Earthquakes in and near Japan, during the period from 1961 through 1970.

** (Received April 4, 1971)

*** U.S. Coast and Geodetic Survey: Seismological Bulletin, および Preliminary Determination of Epicenters Monthly Listing.

- 79 験 (1969) 33, 31~35.
 84 技 (1969) 69, 震 (1968) 46, 1345~1354.
 86 震 (1968) 46, 1149~1182.
 89 技 (1969) 68, 震 (1968) 46, 1355~1477.
 109 験 (1970) 35, 15~35. 震 (1970) 48, 399~412.
 110 験 (1970) 34, 157~176.

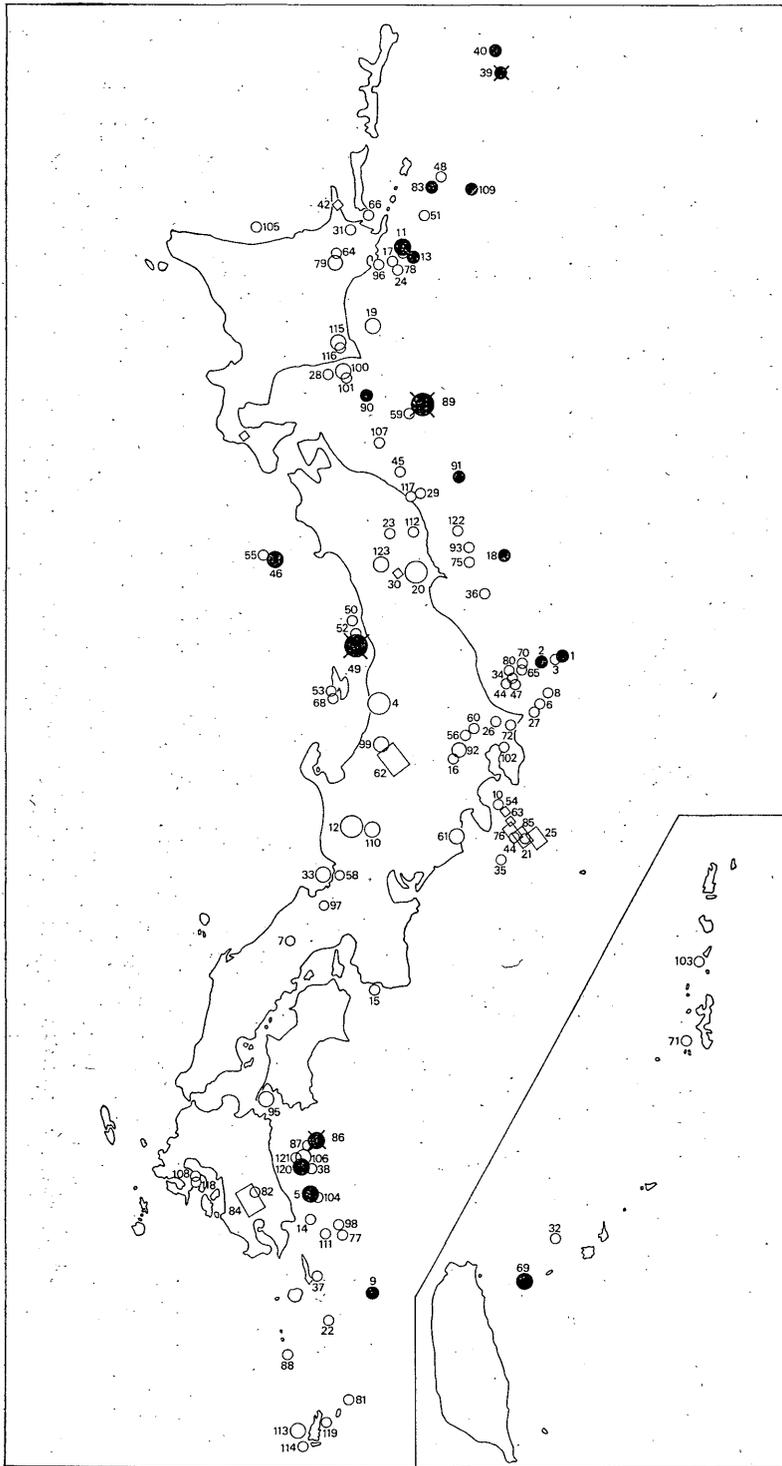
左側の数字は表, 図の番号を示す.

験; 験震時報

震; 地震研究所彙報
 技; 気象庁技術報告

参考文献

- 勝又 護 (1961): 最近の顕著な地震の表 (1951年~1960年),
 験震時報, 26, 129~133.
 勝又 護 (1970): 日本列島およびその周辺におけるサイスミ
 シティとそれに関連する諸問題, 験震時報, 35, 75~142.



顕著な地震の分布図 (1961年~1970年)

番号	発震時 月日時分	震源				マチ グ ニ ド	記 事
		震央地名	北。緯	東。経	深さ km		
T 1	1961(昭36) I 16 16 20	茨城県沖	36 02	142 16	40	6.8	IV: 銚子, 柏, 小津波, 小名浜; 最大波高42cm。(III)
T 2	I 16 21 12	茨城県沖	36 13	141 59	20	6.5	IV: 銚子, 小津波, 小名浜; 最大波高36cm。 (III)
3	I 17 00 41	茨城県沖	36 09	142 08	40	6.6	IV: 銚子。(III)
4	II 2 03 39	新潟県, 長岡付 近	37 27	138 50	20	5.2	IV: 長岡, 長岡市付近で局地的に被害大。死 者 5, 負傷者30, 住家全壊220, 半壊465, 通 信施設の被害等。
T 5	II 27 03 10	宮崎県沖	31 36	131 51	40	7.0	V: 宮崎。IV: 大分, 鹿児島, 阿蘇山, 宇和 島, 佐賀。宮崎・鹿児島県で死者 2, 負傷者 6, 住家全壊 3, 半壊15, 住家一部破損111, 道路, 鉄道の被害等。九州・四国地方の太平 洋沿岸で小津波, 油津; 最大波高90cm, 土佐 清水; 95cm, 串本; 35cm, 布良; 23cm。
6	III 25 07 57	茨城県沖	35 44	141 17	0	6.1	IV: 銚子。(III)
7	V 7 21 14	兵庫県西部	35 06	134 25	40	5.9	IV: 豊岡。
8	VII 18 01 20	千葉県沖	35 48	141 36	0	5.8	IV: 銚子。(II)
T 9	VII 18 23 04	屋久島近海	29 37	131 46	60	6.6	IV: 屋久島, 奄美大島・四国・九州地方の太平 洋沿岸で小津波, 土佐清水; 最大波高20cm, 名瀬; 12cm。
10	VII 22 16 24	伊豆大島近海	34 51	139 20	20	4.6	IV: 大島, 大島で崖くずれ, 道路の小亀裂等。
T 11	VIII 12 00 51	北海道南東沖	42 51	145 34	80	(7.0)	IV: 釧路, 帯広, 広尾, 浦河, 根室。釧路地 方で小被害, 負傷者 4, 住家一部破損11。北 海道太平洋沿岸で小津波, 広尾; 最大波高7 cm, 根室; 15cm。
12	VIII 19 14 33	福井・岐阜県境 (北美濃地震)	36 01	136 46	0	7.0	IV: 福井, 敦賀, 名古屋, 亀山, 飯田, 諏訪, 豊岡, 津。福井・岐阜県等で被害。死者 8, 負傷者43, 住家全壊12, 半壊 3, 住家一部破 損 2, 非住家被害 8, 道路損壊 120, 山くず れ99, 鉄道の被害 3, 通信施設被害 6等。
T 13	XI 15 16 17	北海道南東沖	42 39	145 34	60	6.9	IV: 釧路, 帯広, 根室。北海道南部で負傷者 2, その他軽微な被害。小津波, 根室; 最大 波高13cm。
14	XI 27 14 57	宮崎県沖	31 18	131 33	40	6.0	IV: 宮崎。
15	1962(昭37) I 4 13 35	和歌山県西岸	33 38	135 13	40	6.4	IV: 徳島, 室戸, 洲本, 和歌山。
16	II 6 07 56	埼玉県中部	35 52	139 17	120	(5.9)	IV: 横浜, 甲府。(III)
17	II 21 01 05	北海道南東沖	42 46	145 13	80	(6.2)	IV: 釧路。
T 18	IV 12 09 53	福島県沖	37 58	142 49	40	6.8	IV: 福島, 仙台。東北地方の太平洋沿岸で小 津波, 小名浜; 最大波高30cm, 八戸; 20cm, 鮎川; 55cm。(II)
19	IV 23 14 58	北海道南東沖	42 14	143 55	60	7.0	V: 帯広, 広尾。IV: 青森, 浦河, 釧路, 苫 小牧。北海道東部で小被害。負傷者 3, 住家

番号	発震時 月日時分	震源				マチ グ ニ ド	記 事
		震央地名	北。緯	東。経	深さ km		
20	IV30 11 26	宮城県北部 (宮城県北部地震)	38 44	141 08	0	6.5	被害 159, 道路の損壊, 通信施設, 鉄道の被害等。(II) IV: 盛岡, 石巻, 仙台, 水沢, 福島, 古川市, 田尻町等を中心に, 死者 3, 負傷者 276, 住家全壊 369, 半壊 1542, 一部破損 25575, 非住家被害 37003, 道路損壊 398, 鉄道被害 298, 通信施設の被害等. 東北線瀬峰駅付近で貨物列車が脱線転覆。(I)
21	V 5 20 11	伊豆半島沖	34 07	139 20	0	5.8	IV: 三宅島。(II)
22	VI 3 02 15	奄美大島近海	29 42	130 47	20	5.4	IV: 屋久島.
23	VII15 15 47	岩手県中部	39 29	141 18	100	(5.7)	IV: 盛岡.
24	VII18 02 20	北海道南東沖	42 38	145 10	60	5.9	IV: 釧路.
25	VIII24 }	伊豆三宅島近海 —地震頻発—					24日から三宅島を中心に, 新島から御蔵島南方にわたる地域に群発地震が発生. 30日が最盛期で, 三宅島における有感地震は 183 回におよんだ. 8月中に震度 V (三宅島) が 14 回.
	IX中旬						24日22時20分頃から三宅島雄山が噴火, 住家全壊 4, 焼失 3, 負傷者 30, 山林, 畑等に被害.
	VIII26 15 49	〃	34 07	139 27	40	5.9	V: 三宅島. IV: 新島. 上記の群発地震中の最大の地震. 三宅島で, 住家一部破損, 石垣崩壊, 道路損壊, 山崖くずれ等.
26	XI 9 18 21	茨城・千葉県境	35 55	140 28	40	5.4	IV: 柿岡。(II)
27	XI14 16 48	千葉県沖	35 44	141 08	40	5.8	IV: 銚子。(I)
28	XII21 18 33	北海道, 浦河沖	42 01	142 30	60	6.3	IV: 浦河.
29	XII28 03 18	岩手県沖	39 40	142 14	40	5.9	IV: 盛岡.
30	1963(昭38) I 22~23	宮城県北西部 —地震頻発—					鬼首付近で22日10時頃より23日09時にかけて22回の有感地震.
	23 07 28	〃	38 47	140 45	0		IV: 鬼首. 前記群発地震中の最大の地震.
31	I 28 13 05	北海道東部	43 35	145 00	40	5.3	III: 釧路. 中標津町付近で壁のひび割れ, サイロ, 水道管の被害等.
32	II 26 02 11	琉球列島南部	*24.4	123.5	52	5.3	IV: 石垣島.
33	III27 06 34	福井県沿岸沖 (越前岬沖地震)	35 47	135 46	0	6.9	V: 敦賀, 豊岡. IV: 福井, 舞鶴, 名古屋, 津, 彦根, 姫路, 亀山, 大阪, 奈良. 若狭湾の周辺で負傷者 1, 住家全壊 2, 半壊 4, 焼失 1, 非住家被害 5, 道路の亀裂, 山崩れ等。(II)
34	V 8 19 22	茨城県沖	36 24	141 11	40	6.1	IV: 水戸, 柿岡。(III)
35	VI 3 16 36	静岡県沖	34 03	138 46	40	5.9	IV: 御前崎.
36	VIII15 15 11	福島県沖	37 40	141 57	40	6.6	IV: 石巻, 福島。(II)
37	VIII17 20 12	屋久島近海	30 24	131 03	80	(6.2)	IV: 屋久島, 鹿児島.
38	X 4 08 24	宮崎県沖	31 53	132 09	20	6.3	IV: 宮崎, 都城, 鹿児島, 熊本.

番号	発震時 月日時分	震源				マチ グ ニ ド	記 事
		震央地名	北。緯	東。経	深さ km		
T 39	X13 14 18	エトロフ島沖	43 45	149 58	20	8.1	IV:浦河, 帯広, 津波, 三陸沿岸で漁業施設に軽微な被害。花咲; 最大波高121cm, 函館; 60cm, 八戸; 130cm, 大船渡; 120cm, 御前崎; 86cm, 土佐清水; 54cm. アリューシャン列島, ハワイ諸島, カリフォルニア州沿岸で0.5~0.8m.
T 40	X20 09 54	エトロフ島沖	44 08	150 08	0	6.7	小津波, 八戸; 最大波高50cm.
41	XI13 14 01	三宅島付近	34 17	139 13	0	4.7	IV:新島, 式根島で崖崩れ等の軽微な被害.
42	1964(昭39) I 8~下旬	北海道, 知床半島 —地震頻発—					8日より羅臼付近に地震頻発, 20日が最も多く21日以後次第に減少.
	20 02 01	〃	44 02	145 13	0	4.5	IV:羅臼. 前記群発地震中の最大の地震.
T 43	III28 12 36	アラスカ南部	*61.0	147.8	33	8.5	津波, 三陸沿岸の一部で軽微な被害. 大船渡; 142cm. コディアック島; 約10m, 北米太平洋沿岸で被害.
44	II 5 20 30	茨城県沖	36 24	141 04	40	6.0	IV:銚子. (III)
45	V 3 10 54	岩手県沖	40 08	142 15	40	5.0	IV:宮古.
T 46	V 7 16 58	秋田県, 男鹿半島沖	40 20	139 00	0	6.9	IV:秋田, 酒田. 秋田・山形・青森県で住家全壊2, 半壊21, 一部破損50, 道路損壊7, 鉄道被害15, 山崖崩れ等. 八郎潟の干拓地で被害多し. 北海道, 東北, 中部地方の日本海沿岸で小津波, 深浦; 最大波高30cm. 秋田; 21cm, 松前; 55cm.
47	V30 23 30	茨城県沖	36 14	141 11	40	6.2	IV:水戸, 銚子, 柿岡. (III)
48	V31 09 40	北海道東方沖	43 16	147 14	60	6.7	IV:釧路. (I)
T 49	VI16 13 01	新潟県沖 (新潟地震)	38 21	139 11	40	7.5	V:新潟, 相川, 酒田, 仙台. IV:秋田, 山形, 小名浜, 福島, 前橋, 柿岡, 石巻, 白河, 輪島, 長野, 高田. 新潟・山形県をはじめ隣接諸県にも被害がおよんだ. 特に新潟市の軟弱地盤に起因する災害が著し. 同市で石油タンクの大火災が発生. 津波は日本海沿岸の各地に波及し, 新潟県大島崎で5m, 両津; 3m, 七尾; 2m, 船川; 2~3m, 浸水家屋等の被害. 死者26, 負傷者447, 住家全壊1960, 半壊6640, 全焼290, 一部破損67,825, 道路損壊1007, その他堤防, 鉄道, 船舶などに多数被害. (III)
50	VI19 19 05	新潟県沖	38 45	139 29	0	5.5	IV:酒田.
51	VI23 10 26	北海道東方沖	42 59	146 28	80	(6.9)	IV:根室, 釧路, 広尾, 浦河: 負傷者1, 通信施設, 築堤などに軽微な被害.
52	VII12 10 45	新潟県沖	38 31	139 19	0	6.0	IV:酒田.
53	XI27 22 47	佐渡島付近	38 02	138 17	40	5.8	IV:新潟, 相川.
54	XII 6~ I 上旬	伊豆大島近海 —地震頻発—					6日頃から大島付近地震頻発. 同月中に有感地震100余回. 25, 26日が最盛期.

番号	発震時 月日時分	震源				マチ グ レ ー ド ニ ド	記 事
		震央地名	北。緯	東。経	深さ km		
55	おもな地震						
	1964 XII 9 02 49	34 35	139 18	0	5.8	IV: 大島. 新島, 利島で石垣崩壊, 崖崩れ, 道路損壊等軽微な被害.	
	25 22 50	34 44	139 19	20	5.3	IV: 大島. 大島で軽微な被害.	
	26 02 01	34 40	139 17	0	5.5	IV: 大島. 大島, 利島で軽微な被害.	
	1965 I 6 05 45	34 38	139 17	20	5.1	IV: 大島.	
	I 6 05 46	34 41	139 31	20	5.3	IV: 大島.	
	XII 11 00 11	秋田県, 男鹿半島沖	40 25	138 56	40	6.3	IV: 秋田.
	1965(昭40) I 27 08 47	埼玉県東部	36 01	139 46	80	(5.4)	IV: 柿岡. 東京都西部地方でIV. (III)
	T 57 II 4 14 01	アリュエーション列島中部	*51.3	178.6	40	7.5	津波がオホーツク海および太平洋に波及, 東北地方沿岸で軽微な被害. 網走; 12cm, 花咲; 42cm, 大船渡; 73cm, 長津呂; 25cm, 串本; 76cm, 油津; 47cm. シュミヤ島; 10~20m, アツツ島; 2.4m, ヒロ; 0.3m.
	58 III 6 01 21	福井・滋賀県境	35 30	135 57	0	4.7	IV: 敦賀.
59 III 17 01 46	青森県東方沖	40 47	143 12	40	6.4	IV: 盛岡.	
60 IV 6 14 32	茨城県南西部	36 03	139 55	60	5.5	IV: 前橋, 宇都宮. (III)	
61 IV 20 08 42	静岡付近	34 53	138 18	20	6.1	IV: 静岡, 船津, 三島, 網代, 浜松, 甲府, 横浜, 御前崎. 死者 2, 負傷者 4, 住家一部破損 9, 鉄道被害 1, 通信施設の被害等. (III)	
62 VIII ~ 1970	長野県北部 —地震頻発— (松代群発地震)					1965年 8月より始まり, 1965年11月, 1966年 3~5月, 同年 8月~9月の 3回の最盛期をはさみ, 地震活動の消長をくりかえしながら 1970年末ごろには, ほとんど終息した. この間に有感地震回数は約63000回 (うち震度IV; 50回, V; 9回) におよんだが M: 5.4をこえる地震は発生しなかった (M: 5以上の地震回数20回). しかし, 局地的にかなり強い震動をともなった地震も多く. 住家の一部破損, 道路, 堤防の損壊, 鉄道, 通信施設の損害等の被害が続出した. また, 地震活動が長期にわたったため, 社会生活に与えた影響も大きかった. 1966年 7月17日松代牧内地区の東側斜面で地すべりが起り民家11軒を押しつぶした.	
おもな地震 (M: 5.3以上)							
1966 IV 5 17 51	36 35	138 19	0	5.4			
V 28 14 21	36 34	138 13	0	5.3			
VIII 3 03 48	36 28	138 12	0	5.3			
VIII 28 13 09	36 28	138 08	0	5.3			
X 26 03 04	36 23	138 22	0	5.3			
1967 II 3 17 17	36 26	138 04	0	5.4			
X 14 04 48	36 32	138 12	10	5.3			

	有感 地震数	震度 IV	震度 V	M: 5以 上の地震	被害 地震
1965(40)	6990	10	0	1	3
1966(41)	52151	37	8	12	32
1967(42)	2351	1	1	5	13
1968(43)	745	2	0	2	2
1969(44)	388	0	0	0	0
1970(45)	201	0	0	0	1

番 号	発 震 時 月 日 時 分	震 源				マチ グ レ ー ド ニ ド	記 事
		震 央 地 名	北。緯	東。経	深 さ km		
63	VIII 3~9 3 17 30	伊豆新島付近 —地震頻発— //	34 16	139 18	0	5.0	3日から9日にかけて地震頻発, 3日式根島で震度IV: 3回. IV: 新島, 新島, 式根島で崖崩れ, 落石等の軽微な被害. 前記群発地震中の最大の地震.
64	VIII 31 16 49	北海道東部	43 29	144 26	0	5.1	弟子屈, 川湯等で軽微な被害, 17時04分, (M: 5.0)の地震が続発.
65	IX 18 01 21	茨城県東方沖	36 19	141 28	40	6.7	IV: 福島, 銚子, 白河, 小名浜, 水戸, 柿岡. (III)
66	X 26 07 34	根室海峡	43 44	145 31	160	(6.8)	IV: 釧路, 広尾, 八戸. 釧路市および周辺で軽微な被害.
67	XI 13 XII 13 02 14 13 02 52	伊豆鳥島付近 —地震頻発—	30 17 30 34	140 26 140 36	40 0	5.4 6.5	13日より鳥島近海に地震頻発. IV: 鳥島. IV: 鳥島.
68	1966(昭41) I 20 10 44	佐渡島付近	37 53	138 07	0	5.3	IV: 相川.
T 69	III 13 01 31	台湾東方沖	*24.2	122.6	48		V: 与那国島. IV: 石垣島. 与那国島で死者2, その他の小被害. 琉球列島, 九州の西海岸に軽微な津波. 台湾で死者4, 負傷者11, M: 7-7½(PAS), m: 6.7 (CGS).
70	IV 3 13 45	茨城県沖	36 16	141 31	20	5.8	IV: 小名浜, 水戸. (III)
71	IV 7 18 42	沖繩島付近	*26.2	127.4	45		IV: 那覇. m: 5.8 (CGS)
72	V 17 09 59	千葉県東部	35 40	140 37	40	5.1	IV: 銚子. (II)
73	V 27—下旬	北海道渡島半島 —地震頻発—					27日夜から渡島半島で地震頻発. 27日23時34分頃の地震は鉛川地方で震度IV.
T 74	X 18 06 41	ペルー沿岸	10.7 S	78.7 W	38		津波が太平洋沿岸各地に波及. 釧路; 最大波高23cm, 八戸; 42cm, 大船渡; 24cm, 小名浜; 20cm, 清水港; 5cm, 潮岬; 16cm, M: 7½ (PAS), m: 6.3 (CGS).
75	1967(昭42) I 17 20 59	金華山沖	38 15	142 05	30	6.3	IV: 仙台, 大船渡. (II)
76	IV 6~8 おもな地震	伊豆神津島近海 —地震頻発— IV 6 15 17 IV 6 17 49 IV 6 18 06	34 13 34 19 34 17	139 09 139 10 139 11	10 0 20	5.3 5.2 4.9	6日から8日にかけて地震頻発. III: 新島, } 神津島, 式根島, 新島で負傷者 IV: 新島, } 3, 住家全壊7, 半壊9, 住家一 IV: 新島, } 部破損61, その他道路損壊等. 式根島で6日V: 2回, IV: 1 回. 神津島で6日IV: 1回.
77	V 19 08 39	屋久島近海	30 44	130 59	70	(5.4)	IV: 屋久島.
78	IX 19 19 56	北海道東方沖	42 46	145 33	90	(6.2)	IV: 釧路, 根室, 広尾. (I)
79	XI 4 23 30	北海道東部	43 29	144 16	20	6.5	IV: 釧路, 網走. 弟子屈町, 阿寒町等で負傷者2, 住家半壊1, 住家一部破損8, 道路の地割れ, 亀裂等.

番号	発震時 月日時分	震源			マグニ チュー ド	記 事	
		震央地名	北緯	東経			深さ km
80	XI 19 21 07	茨城県沖	36 26	141 13	50	6.0	IV: 小名浜. (III)
81	XI 26 09 08	奄美大島近海	28 28	130 17	40	5.6	IV: 名瀬.
82	XI 28 11 37	宮崎県南西部	32 05	130 57	130	(6.0)	IV: 宮崎.
T 83	1968(昭43) I 29 19 19	北海道東方沖	43 11	147 00	30	6.9	IV: 根室. 小津波, 根室; 最大波高26cm.
	II 21 08 51	宮崎県南西部 —地震頻発—	32 01	130 43	0	5.7	V: 人吉, 軽微な被害. この地震後地震頻発.
84	21 10 45	(えびの地震)	32 01	130 43	0	6.1	V: 人吉. IV: 宮崎, 延岡, 阿久根, 枕崎. 鹿児島県吉松町, 宮崎県えびの町等を中心 に, 死者 3, 負傷者42, 住家全壊 368, 住家 半壊 636, 住家一部破損 3176, その他道路の 損壊, 橋梁の破損, 崖くずれ等の被害.
	III 25 00 58		32 01	130 43	0	5.7	両地震により負傷者 3, 住家全壊 18, 半壊 147等.
85	01 21		31 59	130 44	10	5.4	IV: 人吉.
	II 24~下旬	伊豆新島近海 —地震頻発—					新島近海に地震頻発し, 25, 26両日で, 新島 で震度IV: 2回, 式根島V: 3回, IV: 4回, 神津島V: 4回, IV: 4回.
T 86	おもな地震	II 25 00 23 00 34 01 01 01 49	34 14	139 15	0	5.0	IV: 新島. (式根島で住家全壊 2, 半壊 4, 道路損壊 4, 神津島では住家一 部破損 1, 崖崩れ 6等.)
			34 08	139 07	20	5.0	
			34 07	139 14	10	4.9	
			34 11	139 13	20	4.9	
IV 1 09 42	宮崎県沖 (日向灘地震)	32 17	132 32	30	7.5	V: 延岡, 宿毛. IV: 大分, 熊本, 阿蘇山, 宮崎, 人吉, 鹿児島, 佐賀, 高知, 足摺, 松 山, 宇和島, 呉, 豊岡. 被害区域は四国・九 州地方におよぶ. 高知県で被害が大. 負傷者 15, 住家全壊 1, 半壊 2, 一部破損 23, 道路 損壊 18, 堤防亀裂 13, 橋梁破損, 山くずれ, 船舶の沈没等. 津波, 土佐清水; 最大波高 236cm, 細島; 182cm, 油津; 71cm, 室戸岬; 96cm, 串本; 94cm	
87	IV 1 16 13	宮崎県沖	32 18	132 23	0	6.3	IV: 延岡
88	V 14 23 05	奄美大島近海	29 35	129 48	160	(6.3)	IV: 名瀬, 屋久島.
T 89	V 16 09 49	青森県東方はる か沖 (十勝沖地震)	40 44	143 35	0	7.9	V: 浦河, 苫小牧, 盛岡, 広尾, 函館, 八戸, 青森. IV: 岩見沢, 江差, 室蘭, 小名浜, 大 船渡, 石巻, 秋田, 釧路, 帯広, 宮古, 寿都, 札幌, 小樽, 旭川, 倶知安, 白河, 福島, 根 室, 森, 酒田, 滝川, 夕張, 日高門別. 津 波, 北海道南岸地方で約 1 m, 三陸沿岸で 3 m, 大槌湾では 5.7m. 宮古; 5.3m, 銚子; 80cm, 布良; 60cm. 被害は青森県と北海道南 部で最も多く, 死者 49, 行方不明 3, 負傷者 330, 住家全壊 673, 半壊 3004, 住家全焼 13, 住家一部破損 15697, 道路損壊 420, 橋梁流 失 25, 堤防決壊 40, 鉄道被害 60, その他船舶,

番 号	発 震 時 月日時分	震 源				マチ グ ラ フ ニ ド	記 事
		震 央 地 名	北。緯	東。経	深さ km		
T 90	V 16 19 39	青森県東方沖	41 25	142 51	40	7.5	通信施設等に大きな被害。(Ⅲ) V:浦河, 広尾. IV:秋田, 福島, 釧路, 俱知安, 旭川, 函館, 苫小牧, 盛岡, 帯広, 大船渡, 青森, 八戸, 森. 小津波, 三陸沿岸地方で20~30cm. 地震により小被害(09時49分の本震によるものと重なり詳細不明).(Ⅱ)
T 91	VI 12 22 42	岩手県沖	39 25	143 08	0	7.2	IV:仙台, 盛岡, 八戸, 青森, 宮古. 津波, 宮古; 最大波高42cm, 鮎川; 78cm, 浦河; 59cm, 八戸; 54cm, 大船渡; 32cm, 気仙沼; 44cm, 小名浜; 28cm.(Ⅱ)
92	VII. 1 19 45	埼玉県中部	35 59	139 26	50	6.1	IV:水戸, 熊谷, 宇都宮, 三島, 甲府, 秩父, 横浜, 東京. 東京都および栃木県で軽微な被害. 負傷者7, 住家一部破損15, 非住家破損1等.(Ⅳ)
93	VII 5 20 28	宮城県沖	38 26	142 13	50	6.4	IV:大船渡.(Ⅱ)
T 94	VIII 2 05 19	フィリピン・ルソン島沿岸	*16.5	122.2	37	7.3	石垣島で小津波. 布良; 最大波高32cm.
95	VIII 6 01 17	愛媛県西方沖	33 18	132 23	40	6.6	V:宇和島, 大分. IV:福岡, 熊本, 延岡, 宮崎, 鹿児島, 阿蘇山, 宿毛, 足摺, 松山, 呉, 岡山, 山口, 多度津, 油津, 入吉. 愛媛県を中心に負傷者22, 住家全焼1, 住家一部破損7, 道路損壊20, 崖くずれ44, その他船舶, 通信施設, 鉄道に被害等. 宇和島では重油タンクに亀裂が生じ重油が流失.
96	VIII 7 17 00	北海道南東沖	42 58	144 58	80	(5.8)	IV:釧路.
97	VIII 18 16 12	京都府中部	35 13	135 23	0	5.6	IV:舞鶴. 綾部市で住家半壊1, 住家一部破損1, 和知町周辺で落石, 道路の亀裂等.
98	IX 7 04 22	屋久島近海	30 54	131 59	70	(5.5)	IV:油津.
99	IX 21 07 25	長野県北部	36 49	138 16	10	5.3	IV長野. 負傷者2, 住家一部破損 224, 石垣損壊13; 水道管, 鉄道施設の被害等.
100	IX 21 22 05	北海道, 浦河沖	41 59	142 48	80	(6.8)	V:浦河. IV:広尾, 帯広, 八戸, 青森. 負傷者4, 住家一部破損等.(Ⅰ)
101	X 8 05 49	北海道, 浦河沖	41 49	142 43	60	6.2	IV:浦河, 広尾, 帯広. 国鉄日高線で路盤の沈下, 橋脚の亀裂等.
102	X 8 09 50	千葉県中部	35 31	140 09	70	(5.3)	IV:千葉.(Ⅲ)
103	XI 12 09 44	奄美大島近海	27 28	128 25	20	5.6	IV:沖永良部.
104	XI 14 21 12	宮崎県南岸沖	31 32	131 53	10	5.3	IV:油津.
105	1969(昭44) I 19 16 12	北海道北東沖	44 33	143 29	260	(7.1)	IV:釧路, 八戸.(Ⅰ)
106	IV 21 16 19	宮崎県沖	32 09	132 07	10	6.5	IV:宮崎, 延岡, 油津. 宮崎県西臼杵郡で落石のため2名重傷.
107	VI 21 00 38	青森県東方沖	40 42	142 22	40	5.6	IV:八戸.
108	VII 27 04 36	長崎県, 雲仙岳付近	32 47	130 11	10	4.4	IV:雲仙岳.

番号	発震時 月日時分	震源			マグニ チュー ド	記 事	
		震央地名	北緯	東経			深さ km
T 109	VIII 12 06 28	北海道東方沖	42 42	147 37	30	7.8	IV: 根室, 釧路. 根室市花咲港の岸壁に小亀裂, 釧路市内軽微な被害. 小津波, 花咲: 129cm, 釧路: 72cm, 浦河: 66cm, 函館: 24cm, 宮古: 32cm, 大船渡: 34cm, 鮎川: 36cm, 銚子: 21cm, 津波により気仙沼湾で漁業施設等に軽微な被害. (I)
110	IX 9 14 15	岐阜県中部	35 47	137 04	0	6.6	V: 三岳. IV: 飯田, 大阪, 名古屋, 福井, 津, 高山. 山岳地帯に山崩れによる道路損壊, 落石による被害多し. 岐阜県郡上郡奥明方村を中心に死者 1, 負傷者10, 住家一部破損86, 非住家破損49, 橋梁損壊 2, 山崩れ36等. (III)
111	IX 18 03 41	屋久島近海	30 56	131 41	0	5.9	IV: 宮崎.
112	X 18 10 13	岩手県南部	39 13	141 39	130	(5.8)	IV: 盛岡.
113	1970(昭45) I 1 04 01	奄美大島近海	28 24	129 13	50	6.1	V: 名瀬. 名瀬市および大和村を中心に, 負傷者 3, 住家一部破損 1462, その他道路損壊, 橋梁損壊, 港湾施設, 通信施設等に被害.
114	I 1 10 50	奄美大島近海	28 10	130 08	50	5.4	IV: 名瀬. 上記地震後, この地震をはじめ 4月頃まで地震活動が続いた.
115	I 21 02 33	北海道南部	42 23	143 08	50	6.7	V: 広尾, 帯広, 浦河. IV: 八戸, 岩見沢, 苫小牧, 日高門別. 北海道日高地方で小被害. 負傷者32, 住家全壊 2, 半壊 7, 住家一部破損 139, 非住家破損60, 鉄道, 道路の被害等.
116	I 21 21 59	北海道南部	42 22	143 06	40	4.8	IV: 広尾.
117	IV 1 23 23	岩手県沖	39 45	142 03	80	(5.7)	IV: 宮古, 盛岡. (I)
118	VII 10 09 13	長崎県南部	32 44	130 11	10	4.4	IV: 雲仙岳.
119	VII 12 06 17	奄美大島付近	28 15	129 35	30	5.2	IV: 名瀬.
T 120	VII 26 07 41	宮崎県沖	32 04	132 02	10	6.7	V: 宮崎, 都城, 油津. IV: 大分, 熊本, 延岡, 阿蘇山, 入吉. 負傷者13, 道路損壊 5, 山崩れ 4等の被害. 小津波, 土佐清水; 最大波高44cm, 油津: 39cm, 串本: 17cm.
121	VII 26 16 10	宮崎県沖	32 07	132 06	10	6.1	IV: 宮崎, 油津.
122	IX 14 18 45	宮城県沖	38 41	142 20	40	6.2	IV: 石巻, 大船渡, 宮古, 盛岡, 仙台. (III)
123	X 16 14 26	秋田県南東部	39 12	140 45	0	6.2	V: 湯田, 雫石. IV: 酒田, 宮古, 盛岡. 秋田県東成瀬村, 岩手県湯田村等で小被害. 負傷者 6, 全焼 1, 住家半壊 20, 住家一部破損 446, 道路損壊 36, 山崩れ 19, 鉄道被害等. (I)